

神田翔太郎 医師

かんだ・しょうたろう / 2008年山形大学医学部卒業。自治医科大学付属さいたま医療センター講師などの勤務を経て、19年4月にさっぽろ脊椎外科クリニック勤務。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



医療法人 さっぽろ脊椎外科クリニック

札幌市北区北13条西2丁目2-1
011-729-1154 <https://sapporo-spine.com/>

治療に『早すぎる』は無し。家族の気づきが健康寿命を伸ばす

腰部脊柱管狭窄症をはじめ、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎すべり症などの脊椎疾患を専門としている神田翔太郎医師。投薬、リハビリといった保存治療が基本だが、完治を目指す場合は手術が必要となる。神田医師は「趣味のスポーツを続けたいと手術を希望す

る患者さんであれば、「少しの時間だけ買物に出かけられればいい」と言われる患者さんもあります。一人ひとりのライフスタイルに沿って治療方針を策定します」と話す。その一方で「ワクチンの接種を終えるまでは受診を控えよう」という意識が高まっていますが、疾患によっては進行が早いものもあります。まずは専門医への受診をお勧めします」と早期受診を訴える。

外来を担当する傍ら、担当患者の執刀医として、あるいは山田恵二郎院長、濱田一範副院長の助手として手術室で長い時間を過ごしている。2020年の同院の手術件数は486例を数え、神田医師はそのほとんどに参加。難症例を含め、多くの経験を積み、手技に磨きをかけている。

新しい低侵襲手術「OLF」と「XLIIF」も習得している。わずかな切開で神経の除圧と脊椎間固定、脊椎配列の矯正などが可能となり、背筋などの筋肉組織への侵襲が少なく手術翌日からリハビリができる。入院期間は2〜3週間と従来手術よりも短い。

MRI(左)とリハビリ室(右)



先端機器を完備した手術室

日本脊椎脊髄病学会認定指導医として手術精度の追求はもとより、患者の身体的負担の軽減に努めている。全てのおペには専任の麻酔科医として佐藤公一医師も参加。チム一丸となって、より安心・安全な手術を目指している。院内は感染対策を徹底。病床エリアの対策も強化し、入院患者の不安を軽減している。神田医師は「下肢痛やしびれ感に加え、長い距離を歩けなくなってきたといった兆候は黄色信号です。ご家族の気づきも健康寿命を延伸させる大事なポイント。治療に『早すぎる』ことはありません」と呼びかける。



地下鉄、JRからもアクセス良好